

研究実施のお知らせ

2023年8月7日 ver.1.1

研究課題名

胆管空腸吻合部狭窄に伴う胆管結石に対するダブルバルーン小腸内視鏡併用 ERCP による結石除去術の再発因子に関する後ろ向き研究

研究の対象となる方

2012年4月から2022年9月の間に島根大学医学部附属病院で胆管空腸吻合部狭窄と診断され、ダブルバルーン内視鏡を用いた治療を受けられた方

研究の目的・意義

胆管空腸吻合は主に膵頭部や胆管、十二指腸の悪性腫瘍に対して切除術をした際に行われる吻合であり、肝胆膵外科領域で最も重要な吻合の一つです。胆管空腸吻合の合併症の一つに胆管空腸吻合部狭窄があり、それにより胆管結石を合併し胆管炎を繰り返し発症するため患者さんの生活の質を低下させることが問題となっていました。かつては胆管空腸吻合部狭窄に対して治療の選択肢が限られていましたがダブルバルーン内視鏡が開発され2009年から当院でも胆管空腸吻合部狭窄に対するダブルバルーン内視鏡を用いた胆管造影、結石除去を積極的に行っています。以前より治療の選択肢が増えたものの、結石を完全に除去しても胆管炎、胆管結石の再発を繰り返す患者さんが一定数おられます。本研究を行うことにより胆管空腸吻合部狭窄に伴う胆管結石を有する患者さんに対しダブルバルーン内視鏡を結石除去術の長期予後に影響する項目を明らかにすることで成績向上が期待できると考えています。

研究の方法

利用する診療情報の項目：以下の10項目を取得します。

- 1) 年齢、性別
- 2) 糖尿病の有無
- 3) 内服歴（プロトンポンプ阻害薬、ウルソデオキシコール酸）
- 4) 原疾患
- 5) 最終術式（再建方法）
- 6) ダブルバルーン小腸内視鏡を用いて胆管結石除去に成功した日
- 7) 結石除去までに行ったダブルバルーン小腸内視鏡併用した胆管造影、胆管結石除去術の回数

- 8) 結石除去までに行ったバルーン拡張術の回数
- 9) 結石除去までに行ったバルーン拡張術の最大径
- 10) 結石除去後に胆管炎または胆管結石再発を確認した日

研究の期間

2022年10月26日～2024年9月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究代表者：

島根大学医学部附属病院消化器内科 福庭暢彦

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2023年5月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院消化器内科 福庭暢彦

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2190 FAX 0853-20-2189